

THE JAPANESE SOCIETY FOR QUALITY CONTROL

2007.6/JUNE



JSQC ニューズ

No.277

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03(5378)1506 FAX.03(5378)1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス SQuBOK®ガイド策定プロジェクト
- 2-私の提言 今こそ日本品質管理学会から社会への情報発信を
- 2-ルボルタージュ 第319回中部事業所見学会
- 3-受賞おめでとうございます／4月の入会者紹介／教員公募
- 4-行事案内／会員名簿改訂のお知らせ

『ソフトウェアの品質に関する知識体系のガイド—SQuBOK®ガイド』策定プロジェクトのご紹介

SQuBOK®策定部会リーダ (日本アイ・ビー・エム株) 岡崎 靖子

(社)日本品質管理学会・ソフトウェア部会のSQuBOK®(スクボック)研究会は、(財)日本科学技術連盟・SPC委員会と共同で、SQuBOK®策定部会として『ソフトウェアの品質に関する知識体系のガイド (SQuBOK®ガイド: Guide to the Software Quality Body of Knowledge)』を策定しております。このSQuBOK®ガイドの策定についてご紹介致します。

2005春に飯塚悦功先生(東京大学教授)を委員長とする(財)日本科学技術連盟・SPCステアリング委員会において、ソフトウェアの品質に関する技術全般に対し客観的・網羅的な知識ベースを付与し、現場で品質管理をしている人が読み解けるソフトウェア品質に関する知識体系の必要性が議論され、予備的検討が行われました。そして、ソフトウェアの品質に関する知識体系構造のドラフトと第1版正式版策定までのマイルストーン、および完成後は公表する方針であることが草案として示されました。この草案を受けて同年9月にSQuBOK®策定部会を組織し、SQuBOK®ガイドの策定を開始致しました。現在、当部会には27名の企業の品質に関わる担当者と大学関係者がおり、ボランティアでSQuBOK®ガイドを策定しております。また、大場充先生(広島市立大学)、松尾谷徹先生(デバッグ工学研究所、法政大学)、保

田勝通先生(つくば国際大学)(50音順)に顧問として助言をいただいております。

我々のSQuBOK®ガイド策定の目的は次の5つです。

- 品質保証に携わる方の育成に役立つものにする
- ソフトウェア品質に関する日本の暗黙知を形式知化する
- ソフトウェア品質に関する最新のテーマを整理し、体系化する
- ソフトウェア品質技術の認知度向上を図る
- ソフトウェア品質保証プロセスを確立したい組織の助けとなる

SQuBOK®ガイドは、わが国のソフトウェア品質界が蓄積してきた有用な“知識”の構造的可視化をめざし、公表されている国内の良い事例も含めることを基本とし、(1) カテゴリ (2) サブカテゴリ (3) 知識領域 (4) 副知識領域 (5) トピックスの5層で知識を整理しております。最上位のカテゴリ層は『ソフトウェア品質の基本概念』、『ソフトウェア品質マネジメント』、『ソフトウェア品質技術』の3つに大別し、最初の『ソフトウェア品質の基本概念』カテゴリでは、品質の概念をはじめとする、ソフトウェア品質に関する基本的な概念や考え方を分類しております。次の『ソフトウェア品質マネジメント』カテゴリでは、品質をマネージするためのアクティビティ(諸活

動)を分類、最後の『ソフトウェア品質技術』カテゴリでは、メトリクス、および、要求分析から運用・保守の技法に至るまでの具体的な手法を分類しております。SQuBOK®ガイド全体では、約250のソフトウェアの品質に関するテーマを扱っており、各々に簡単な解説文を付与しております。また、国内で入手しやすい和書をできるだけ参照文献・関連文献として紹介するように努めました。

当部会では2006年4月に一旦成果を第1版 α 版としてまとめ、有識者の方々にレビューしていただきました。そして、頂戴したコメントを反映しつつ、 α 版で積み残した内容も盛り込んで β 版を策定しました。なお、SQuBOK®ガイドを短期間で確実に形としていくために、この版はソフトウェア品質のマネジメントや評価に関するものを主に扱い、設計やコーディングなどの作りこみに関するものは次版以降で順次追加していく予定です。

現在この β 版を一般公開するための最終準備をしているところです。公開の折には、皆様のご指導・ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。当プロジェクトは第114回シンポジウム(7月3日)でもご紹介をする予定です。詳細は(社)日本品質管理学会のホームページをご覧下さい。

※SQuBOK®は(財)日本科学技術連盟の登録商標です。

● 私の提言 ●

今こそ日本品質管理学会から社会への情報発信を

(財)日本科学技術連盟 小大塚 一郎



昨年後半ごろから日本企業にも漸く復活の兆しが見えはじめ、明るさが出てきたことは非常に喜ばしいことである。

しかしながら、この数年来頻発してきている重大な品質問題は依然として減少していないのが現状である。品質管理活動を普及、推進している日科技連、日本規格協会も同様であるが、世界の品質のリーダーシップをとっているといわれている日本企業がこのような品質問題を起こしているにも拘らず、日本品質管理学会に対して、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等の報道機関から微に入り細に入った取材が少ないの

はちょっと寂しい感じがしないでもないのは私ばかりではないと思う。

2001年には当時の狩野会長がNHKの朝の番組「おはよう日本」に出演し品質危機への提言をされ、当時としては画期的であったが、それも5分間ぐらいであった。

私の所属する日科技連も昔から“品質管理”という責任の重い事業をしながら、「日科技連は広報活動、営業活動が手薄だ」といわれて久しい。これまで、日科技連の事業については、「その道（品質管理関係者）の人だけ知つてくれればそれでいい。黒子に徹する」という感じであまりその気になつてこなかつたのも事実だ。しかし、今はそうはいかなくなつた。

やはり、ここは産学協同、連携を目

指している日本品質管理学会が登場して品質管理の基本的見解について情報発信することが最も効果的と思う。まさに昨年から導入した中期計画のQの確保の展開ではないだろうか。それが当学会の役割と思う。そのためには、前にも述べたように新聞、テレビなど報道機関にもっと積極的な広報活動をしてアピールしていった方が好結果を生むのではないかと思う。

BRICsのうち、少なくともブラジル、インドにおいてはわが国の企業人や一般の人よりもはるかに“TQM”という言葉とその重要性を理解している（最近のブラジルでは定かではないが、少なくともTQCと呼ばれた時代の1980年代後半から90年代初期はそうであった）。デミング賞の挑戦企業を始め、海外の企業が「日本製品に倣え」といつているのに、当の日本人に品質管理の理解をしてもらっていないのは寂しいかぎりである。是非、報道機関を通じて品質管理学会の認知度を高めていくよう努力していきたいものである。

**第319回中部
事業所見学会
ルポ**

味の素(株)東海事業所

- さる平成19年4月24日(火)に第319回事業所見学会(中部支部第80回)が、味の素(株)東海事業所(三重県四日市市)にて開催された。『味の素(株)東海事業所における食と医薬の品質保証』のテーマのもと、47名が参加した。
- 同社は100年前の「昆布出汁からの旨み成分グルタミン酸ソーダの発見・抽出」に始まり、以来味の素の開発製造などを続けている歴史の長い会社で、東海事業所は1961年より操業を開始し、現在は鰹節を原料にした「ほんだし」や人工甘味料・化粧品・医薬品等を製造している。
- 見学では主力商品の「ほんだし」の製造工程を案内され、大きな設備をたった1人で運転監視しているという事実に参加者一同驚かされた。また、食品工場でありながら、敷地内でもほとんどその匂いを感じることがないという、周辺環境に対して十分な配慮がなさ

れていることを実感した。さらに、敷地内にはバードサンクチュアリという自然生態系をそのまま保存しているエリアがあり、ほぼ自然の姿のままの池や林には、野鳥・昆虫・魚などが多く生息しており、この点でも環境への優しい配慮が感じられた。

見学後には食品・医療分野各々の品質保証部門の方より、見学会のテーマである「食と医薬の品質保証」についての講演会が行われた。食については、世界の色々な宗教に対応した品質保証が実践されており、医薬については直接命に関わる商品のため非常に厳重な品質管理・保証を実践されていることを、事例をもって説明され、大変素晴らしい管理をされていることがよく理解できた。また、人工甘味料を味見する「アミノ酸体験」が行われ、参加者の「アミノ酸」に対する認識が新たになったと思われる。

今年度より新企画として「参加者意見交換会」を開催した。見学・講演後に参加者が実感した種々の意見を相互に出し合い議論した結果、自分とは違う意見が聞けたなど好評で非常に有意義な企画となり、企画をした幹事として大満足の結果となった。

水谷 政昭 (新日本製鐵株)

ASQ（アメリカ品質協会）受賞おめでとうございます

第20年度会長・赤尾洋二 氏がShainin Medal受賞

第30～31年度会長 狩野紀昭 氏がE.L. Grant Medal受賞

去る4月30日に、アメリカのオーランド（フロリダ）で開催されたASQ（アメリカ品質協会）の年次大会で、当学会名誉会員・元会長の赤尾洋二氏（山形大学客員教授）がShainin Medalを受賞され、元会長の狩野 紀昭 氏（東京理科大学名誉教授）はE.L. Grant Medalを受賞されました。

Shainin Medalは、2004年に創設された、製品の品質とサービスに関連した問題解決における独創的な統計的アプローチの開発や応用に対して授与される賞です。ビジネス要求や技術力を顧客ニーズにまとめるための方法論としての品質機能展開を創案し、その開発と発展を通して製品とサービスの設計における実践的問題解決への顕著な貢献ということが同氏の受賞理由です。

E.L. Grant Medalは、1967年に創設された、品質における

教育上の卓越したリーダーシップの発揮に対して授与される賞です。世界レベルでの品質管理の普及・啓蒙・指導によりグローバル組織力の品質向上に貢献ということが同氏の受賞理由です。本メダルの第一回メダリストはジュラン博士であり、日本人では1971年石川馨氏、1976年近藤良夫氏が受賞されています。



元会長お二人の益々のご活躍を期待するとともに、心からお祝いを申し上げます。

2007年4月の 入会者紹介

2007年4月4日の資格審査において、下記の通り正会員22名、準会員6名、賛助会員1社の入会が承認されました。

(正会員22名) ○与五沢 敏明（オリエンパスメディカルシステムズ）○小具龍史（みずほ情報総研）○田中 宏明・上村 正幸・下山 成人（医誠会城東中央病院）○鈴木 紀克（ピジョンホームプロダクツ）○藤川 泰久（コスモス・コーポレーション）○池北

實（イシダ）○飯室 亨（デット ノルスケ ベリタス エーエス）○梶原 武久（神戸大学）○松田 正義（元・アルプス電気）○陶 広志（日野自動車）○本間 俊介（オリエンタルモーター）○杉浦 正和（早稲田大学）○田松 宗一（マブチモーター）○高橋 知宏（宏善会諫早記念病院）○諸戸 優三（アイシン・エイ・ダブリュ）○長沼 利夫（ビューローベリタスジャパン）○下山 雅秀（コーチー）○岩岡 貢（国際システム審査）○森 孝夫（三栄ハイテックス）○中村 恒子（リコー）

(準会員6名) ○久富 剛・高木 雅弘・中田 知廣（早稲田大学）○森田 麻衣子（大阪府立大学）○篠崎 亮（中央大学）○平野 敏弘（東京大学）

(賛助会員1社1口) ○アスプロミュニケーションズ

正会員：2953名

準会員：75名

賛助会員：177社204口

公共会員：22口

教員公募

慶應義塾大学 教員公募

募集人員：理工学部管理工学科／理工学研究科開放環境科学専攻 教授または准教授1名

所 属：学部は管理工学科、大学院は理工学研究科開放環境科学専攻（オープンシステムマネジメント分野）

専門分野：応用統計

詳細はホームページをご覧ください。

http://www.jsqc.org/q/news/2007/05/post_3.html

応募資格：博士の学位を有すること。年齢は40歳代前半まで。

着任時期：2008年4月1日

提出書類：ホームページをご覧ください。

応募締切：2007年7月24日(火)必着

問合せ先：慶應義塾大学理工学部管理工学科主任 櫻井彰人

Fax : 045-566-1617 E-mail : shunin@ae.keio.ac.jp

山梨大学大学院 教員公募

職 種：大学院医学工学総合研究部情報システム工学系コンピュータ・メディア工学専攻担当および工学部コンピュータ・メディア工学科コンピュータサイエンスコース担当 准教授1名

専門分野：ソフトウェア関連分野

担当科目／提出書類：ホームページをご覧ください。

http://www.jsqc.org/q/news/2007/05/post_4.html

応募資格：博士号を有し、45歳程度までの方が望ましい。

詳細はホームページをご覧ください。

着任時期：2008年1月1日を希望（2008年4月1日も可）

応募締切：2007年6月29日(金)必着

問合せ先：山梨大学大学院医学工学総合研究部コンピュータ・メディア工学専攻 宗久 知男

TEL:055-220-8584 E-mail:munehisa@yamanashi.ac.jp

専攻学科WEB： <http://www.cs.yamanashi.ac.jp/>

行 事 案 内

●第114回シンポジウム（本部）

テーマ：なぜソフトが組み込まれると品質が悪化するのか？
日 時：2007年7月3日(火) 9:55～17:40
会 場：日本科学技術連盟 千駄ヶ谷本部
1号館3階講堂

定 員：150名

参加費：会 員5,000円（締切後5,500円）
非会員7,000円（締切後7,500円）
準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切：2007年6月26日(火)

プログラム：

基調講演「ソフトが組み込まれると品質が悪化する？」

西 康晴氏（電気通信大学）

チュートリアル

「ソフトウェア品質向上の全体像～SQuBOK®による概説」

岡崎靖子氏他(SQuBOK®策定部会)

事例1 山本義則氏（岡谷電機産業株）

事例2 高橋正樹氏（松下電器産業株）

事例3 杉浦英樹氏（富士ゼロックス株）

パネルディスカッション

「なぜソフトが組み込まれると品質が悪化するのか？」

申込方法：

ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第102回（中部支部第48回）講演会

テーマ：「品質工学のすすめーその2ー」
日 時：2007年7月9日(月) 13:30～16:30

会 場：刈谷市産業振興センター

プログラム：

講演1：「欧米・韓国におけるDFSSと品質工学の展開」

田口 伸氏 (ASI Consulting Group)

講演2：「品質工学活用のポイントと成功事例の紹介」

芝野広志氏

(コニカミノルタビジネステクノロジーズ株)

定 員：200名（会員優先）

参加費：会 員4,000円 準会員2,000円
非会員5,000円 一般学生2,500円
申込締切：2007年7月6日(金)到着分
申込方法：中部支部事務局までお申し込み下さい。

●第57回クオリティパブ（本部）予告

テーマ：「ヘリコプターに少年の夢を乗せて」

ゲスト：松坂敬太郎 氏（ヒロボー(株)）

日 時：2007年7月13日(金)18:00～20:30

会 場：日本科学技術連盟 東高円寺ビル5階研修室

定 員：30名

参加費：会員3,000円 非会員4,000円
準会員・一般学生2,000円
(含軽食・当日払い)

詳 細：ホームページをご覧ください。

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第115回（中部支部第26回）シンポジウム

テーマ：ものづくりにおける「実践的Qの確保」へのアプローチ
—自工程完結に基づくプロセス管理と未然防止のための実践手法—

日 時：2007年7月23日(月)10:30～17:35

会 場：中部電力ホール

プログラム：

基調講演「「自工程完結」による品質向上について（仮題）」

佐々木眞一氏（トヨタ自動車株）

パネル討論会：

事例講演① 永田 靖氏（早稲田大学）

事例講演② 立林和夫氏（富士ゼロックス）

事例講演③ 木村弘正氏（富士通）

事例講演④ 杉山雅則氏（トヨタ自動車）

事例講演⑤ 都築 功氏（津田工業）

定 員：200名（会員優先）

申込締切：2007年7月17日(火)到着分

参加費：会員5,000円 準会員2,500円
非会員7,500円 一般学生3,500円
申込方法：中部支部事務局までお申し込み下さい。

●第84回研究発表会（中部）

日 時：2007年8月29日(水)10:40～16:40

会 場：名古屋工業大学

申込締切：2007年8月22日(水)

申込方法：

7月送付予定の参加申込書にご記入の上、中部事務局までお申し込みください。

●第85回研究発表会（関西）発表募集

日 時：2007年9月21日(金)

13:00～17:00（予定）

会 場：大阪・中央電気俱楽部

5階513号室

申込締切：

発表申込締切：7月5日(木)

予稿原稿締切：9月5日(水)

参加申込方法：

7月送付予定の参加申込書にご記入の上、関西事務局までお申し込みください。

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail : apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979

中部支部：白川ビル別館

TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail : nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail : kansai@jsqc.org

会員名簿改訂のお知らせ

当学会では、3年ごとに会員名簿の改訂を行っています。新名簿は本年8月末発行を予定しております。

今回は、冊子版にて配布させていただくことにいたしました。何とぞご理解のほど、お願い申し上げます。

同封のお知らせをご覧いただき、名簿記載事項を確認の上、7月6日(金)までに本部事務局宛にファクシミリまたは郵送でご返送くださいますようお願い申し上げます。

なお、期日までにご連絡がない場合につきましては、会員番号、ご氏名、ご所属のみの記載とさせていただきます。

学会からの情報を、E-mailで発信することが多くなっておりますので、できる限りE-mailアドレスの登録をお願いいたします。

名簿改訂用紙送信先（本部事務局） FAX 03-5378-1507